

Year End & Countdown Look 2001 → 2002 at Kyoto City

取材・文・撮影 / 竹中 聡 (本誌)

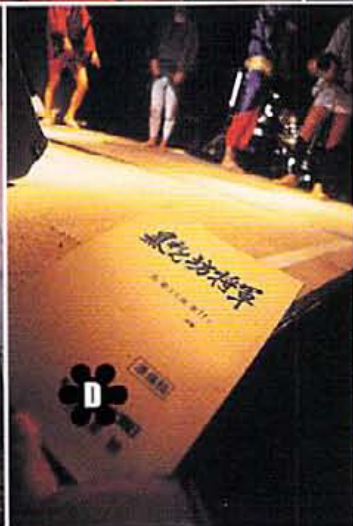
年末にカコつけたカウントダウン・イベントは過激化の一途、どうやら定着のご様子。'01末も大晦日イヴにはMUSE HALLにエルドラごとELECTRIC DRAGONがワンマン・アクトで登場。と言いつつ時代劇でお馴染みの役者さん、入江毅氏率いるCINE BADBOYSの「トランスサウンド&チャンバラ」のフロント・アクトもありつつの、明石家ナニガシなら「コミックバンドですよねえ」と言いそうなライブ。モチ本編のプレイはキッチリ、名器カスタマイズ・レスポールのディストーションサウンドが吠える。Vo.

ユウイチ氏も吠える。舞台ソデではマジSexyなお姉サン方PINK BOMBの面々がクネクネ踊る上モノステージを披露。

一方31日本番の新風館では、パーカッションスト斉藤ノブ氏のアテンドでケーナ奏者阿部次昭氏、ギタリスト古川望氏、シンガー茶木みやこ氏、そしてかの「GARO」の大野真澄氏を迎えての、チョイとハイなライブ。「飲みながら演るの初めてだよ。知らないよ」と笑いつつ披露した永遠の名曲「学生街の喫茶店」はもちろんカウントダウン直前のスケジューリング。

「待ってましたっ」オーディエンスは大喜び。

トドメはかの京大西部講堂にて、延々1カ月、アッチャコッチャで「何かやってた」広域イベント「大風流」のシメがバースト。モチーフは今や「この人を呼べば大丈夫」なF.P.M田中知之氏に、松本洋司氏 (JAQ MUSIC@COLLAGE) らのDJ陣、A HUNDRED BIRDS、Small Circle Of Friend、La Bossaのライブ陣で完全武装。伝説のハコもNEW AGEに。鬼にワラわられても、「今年の末はどんなにかナァ…」と楽しみ次第。



global street art connection from osaka japan

dimeout | 02

comes out! April 2002

supported by



FM802から飛び出したアートブック「dimeout」
待望の第2号、いよいよ2002年4月リリース予定!

特集アーティスト: マムチョー・高山泰治
大谷リュウジ・藤本マナカ・山下浩平

発行: プチグラフィック 定価¥2,000(税別)



A.ライブ中休みナシでお立ち台で踊ってくれたというか男性諸氏の愛情を聞いたPINK BOMBの皆さん。犯罪的なアングルでゴメンナサイ
B.「コメント? ノーコメントやがな」と決めのCINEBADBOYS。「現代人のお客様を巻き込んで笑いを取る」ネオ・チャンバラのステージング
C.京大西部講堂、新年に入ってスタートしたのはLa Bossaのライブ。こちらはカウントダウン後もヒトイキレがむわっと激しく、何せずんごいヒトヒトヒト…
D.CINEBADBOYSのステージに引っ張り上げられ突如「おみよ役」を演じた女性が凌された謝礼は何と台本! しかも「暴れん坊行軍」用のホンモノ
E.右からライブに毎回参加のクンさん、15回目のマルさん6回目のテツさんの「エルドラの3馬鹿」。「エルドラ=魂」っつ〜コアなファン
F.エルドラ招聘のDJカップリングは本誌でもお馴染み級のKISS OF LIFEのDJLUN。今夜は浜々とトランスをスピ。カンロックも出てきたねえ?
G.メンバーの知り合い驚がりでカレはジョッキーのテイコさん(右)とマドカさん。「私覚えてます?」ドキッ! って何とマドカさんは本誌の表紙にも登場経験あり!!
H.エルドラ初体験で「ヒザがガクガクした」というチコさん。アンタッチャブルなオーディエンスがゾロゾロ多い中、良心的ナルックスにホッ♥
I.自販機前でcool downの永巻チヒロさんは嵯峨芸大生。今も昔も西部講堂にはクセのありまなコが多い? この後皆で初日の出は見えましたか?
J.当日イベントに参加した学植くんと彼女のミワさんは歴1.5年のカップル。「今年の目標はBIGになること」。夜空を見上げて誓うのであった
K.新風館のご近所にお住まいのノブユキさんリエさんは新婚。「今まで友達と自毛で撮ってました(笑)」っつ〜タマタマ派。二人で迎える初正月に感激の様子
L.年末の新風館大モニターには本誌の年末イベント、プ厚い2月号の表紙がデカデカと。テマエミソでスマセン。一応協賛もしたモンで
M.新風館にて茶本さん。「キレイに撮って♥」と大人の声でマイク越しに囁かれた日にゃあ…。後ろで斉藤ノブさん、ピースサインとかしてますけど…

